災害時におけるアスベスト被害の防止に向けて
―能登半島地震から1年―

アスベストによる健康被害は、粉じんを吸い込み、10 年から 40 年もの潜伏期間を経て、中皮腫や肺がんなどの重篤な病気を発症します。

阪神・淡路大震災では数多くの建物が倒壊し、復旧・復興工事においても大量の粉じんが飛散しました。そのため、工事に従事した労働者だけでなく、被災地の住民、子どもたち、そしてボランティアの皆さんもアスベストを含む粉じんを吸い込んでしまいました。

私たちは、阪神・淡路大震災から 30 年を迎えるにあたり、あらためて災害とアスベストに関する調査・研究を行ってきました。阪神・淡路大震災の経験がその後の地震や風水害や健康対策にどう活かされてきたのか、そして想定される東南海地震にどう備えるのかを検証するために、シンポジウムを開催します。30 年の節目に、アスベスト問題について一緒に考えましょう。是非ご参加ください。

会　　場

三宮研修センター　7 階

神戸市中央区八幡通 4-2-12

JR・阪急・阪神・地下鉄「三宮」徒歩 5 分

お　申　し　込　み

●WEB からのお申込みはこちらの QR コードを読み込んでください。

●以下の参加申込書に必要事項を記載の上、FAX をお願いいたします。

FAX 078-382-2124

●事前のお申込みは 12 月 27 日までにお願いいたします。

●当日参加も可能ですが、定員になり次第締め切りとさせていただきますのでご了承ください。

阪神・淡路大震災から 30 年　災害とアスベストを考えるシンポジウム ＜ 参加申込書 ＞			
お 名 前			名
連 絡 先	TEL：	FAX：	
	E-mail：		
所属団体			

●シンポジウムを知ったきっかけについて、該当する□に✓をお願いいたします。

□　チラシ　　□　ホームページ　　□　所属団体からの案内

□　その他（　　）

※記載していただいた個人情報は、本シンポジウムに関するご連絡以外に使用いたしません。